

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	村田由香
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
中堅ジェネラリスト看護師のリーダーシップに関する研究			
論文審査担当者			
主査	教授	坂田	桐子
審査委員	教授	岩永	誠
審査委員	教授	関矢	寛史
〔論文審査の要旨〕			
<p>近年の医療の高度化や入院期間の短縮化などにより、医療現場は大きな変革の渦中にある。その中で、特に中堅ジェネラリスト看護師（副部長や主任看護師を含む看護師経験5年目以上のジェネラリスト看護師：以下、中堅看護師）には、後輩の教育指導や組織活動への取り組みなど様々な点でリーダーシップの発揮を期待されてきた。それにもかかわらず、中堅看護師のリーダーシップの内容やその有効性を実証的に検討した研究は存在しない。本論文は、中堅看護師のリーダーシップ概念を明確にしたうえで、それを測定する尺度を作成し、中堅看護師のリーダーシップの有効性を実証的に明らかにすることを目的としている。</p> <p>本論文は5章から構成されている。第1章では中堅看護師を巡る看護現場の問題点を指摘し、看護師のリーダーシップ研究を概観した上で中堅看護師のリーダーシップ研究の必要性を指摘した。第2章（研究1）では、看護部長が「リーダーシップを発揮している中堅ジェネラリスト看護師」として推薦した6施設の看護師15名へのインタビューから、中堅ジェネラリスト看護師のリーダーシップの特徴を質的に分析し、「リーダーとしての姿勢」3カテゴリー及び「リーダーシップ行動」6カテゴリーを明らかにした。第3章（研究2）では、研究1で抽出された9カテゴリーの内容を基に、中堅ジェネラリスト看護師リーダーシップ尺度（Mid-career Generalist Nurses Leadership Scale: 以下、MGNLS）を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。看護師長と1～4年目看護師計347名に質問紙調査を行い、同じ部署内で最も活躍している看護師経験5年目以上の看護師1名のリーダーシップ行動をMGNLSによって評定するよう求めた。その結果、MGNLSは「問題を解決するためのアサーティブな発信力」「後輩中心の成長支援行動」「職場学習の実践」「変革への挑戦」「協調性とセルフコントロール力」「指導者としてのリフレクション行動」の6因子構造で構成される33項目の尺度となった。信頼性はいずれの下位尺度も十分な数値を示し、構成概念妥当性も確認された。第4章（研究3）では、MGNLSによって測定される中堅看護師のリーダーシップの有効性を、部署（病棟）単位の調査によって検討した。所属部署の教育担当係長・主任のリーダーシップをMGNLSで評定するよう求め、60部署に勤務する286名の看護師から回答を得た。マルチレベル分析の結果、中堅看護師のリーダーシップは共有リーダーシップ及び専門性を発揮できる職場環境</p>			

の促進を通して間接的に看護の質に正の関連を示した。職務満足度に対しては直接的に正の関連を示した。また、職務遂行に十分な人数の看護師が配置されるような良好な環境下で中堅看護師のリーダーシップが開発されやすいことが示唆された。以上の結果から、MGNLSで測定された中堅看護師のリーダーシップの有効性が明らかになった。第5章では総合考察を行い、中堅ジェネラリスト看護師のリーダーシップの特徴を考察すると共に、本論文の学術的貢献と現場における中堅看護師のリーダーシップ育成への貢献について丁寧に論じた。

本論文は、看護の現場において中堅ジェネラリスト看護師に漠然と期待されていたリーダーシップの内容を初めて明確にし、それを測定可能にした点、及び中堅看護師のリーダーシップの有効性を実証的に明らかにした点で学術的貢献度が高い。本論文で開発したMGNLSは中堅看護師の体系的な教育と評価に応用可能であり、キャリア目標の明確化に資することで中堅看護師の負担感を軽減できるという点で、実践的貢献も高い研究であると言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。